

1. 科目名 (単位数)	児童・家庭福祉論 (2単位)	3. 科目番号	SCMP2302
2. 授業担当教員	青木 正		SBMP2302
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、演習、プレゼンテーション、学外調査	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	本科目は、社会福祉士国家試験の出題科目であり、履修は受験資格取得において必須条件となっています。		
7. 講義概要	急速に進む少子高齢社会に対応した児童や家庭に対する支援と今後の児童・家庭福祉のあり方について、子ども家庭福祉の原理、理念、権利保障、子ども家庭福祉にかかわる法制度、福祉・保健施策、子ども家庭への援助活動など、基本的なことを体系的に学習する。特に、子ども家庭福祉にかかわる施策分野については、グループでの学習を重視する。また、学外での調査も取り入れ、学生が教室内だけの理解から、地域や社会と関係した視点から問題が把握できるように援助する。併せて、社会福祉士国家試験に対応できる授業内容とする。 授業の進め方は、講義を基にグループでのディスカッション、演習等を多く取り入れたものにする。		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢社会における子どもや家庭に対する支援の必要性を理解する。</li> <li>・子ども家庭の福祉の原理・理念・権利保障について理解する。</li> <li>・児童福祉の歴史について理解を深める。</li> <li>・子ども家庭の福祉にかかわる法制度及び具体的施策について理解する。</li> <li>・子ども家庭への相談・援助活動、地域援助活動等について理解を深める。</li> </ul> 現在の日本における児童・家庭福祉の課題について理解を深めるとともに、社会に出た時に活用できる発想法や分析方法、スピーチ・プレゼンテーションなど具体的手法、スキルを授業の中で身につける。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	「学外調査として、休校期間中に、自分が居住する地域 (市区町村) の『子ども家庭』に関する問題や課題について調査し、分かったこと、理解したこと、発見したこと等を報告書にまとめる。」 ※レポートのタイトルは、自分で考えて表紙に記載すること。 ※レポートは、A4サイズ横書きで3枚とする。 ※調査方法としては、可能な限り学校などの教育機関、児童館などの児童福祉施設、市 (区) 役所や町 (村) 役場、保健センターなどの機関訪問をする。又は、民生委員・児童委員など地域の「子ども家庭事情」に詳しい方から「子ども家庭」に関する話を聴くことが望ましい。子ども家庭福祉に関連する施策に関するチラシやパンフレットなども頂き、レポートに添付することが望ましい。 ※提出は、休校期間明けの最初の授業時とする。		
10. 教科書・参考書・教材	<b>【教科書】</b> 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新社会福祉士養成講座 3 児童・家庭福祉』 中央法規出版、2021年。 <b>【参考書】</b> 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 児童家庭福祉の全体像を、講義やグループ討議、レポート作成を通して理解し、説明ができるようになる。 2. グループ活動を通じて、思考力を高め、問題発見・問題解決力などの能力を培う。 ○評定の方法 授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。 1 授業への積極的参加 (ディスカッション・発表) 総合点の30% 2 日常の学習状況 (小テスト・小レポート・学外調査) 総合点の30% 3 課題レポート 総合点の40%		
12. 受講生へのメッセージ	本科目は、社会福祉士国家試験の出題科目であり、履修は受験資格取得において必須条件となっています。また学習内容は、私達の日常生活、地域生活に直結しており、社会福祉を学ぶ者にとっての一般常識的な内容も含まれています。一方で、専門的な固有性をもった内容も含まれているため、積極的な授業への参加が求められます。全出席が基本ですので、体調管理に気を付けて授業に臨んで下さい。		
13. オフィスアワー	授業中に通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ガイダンス：授業の概要と進めかた 子ども家庭福祉とは何か①：・子どもの権利	事前学習	シラバスを熟読しておく
		事後学習	児童の権利に関する条約の意義について理解する
第2回	子ども家庭福祉とは何か②：・子どもの生命と発達 子ども家庭・地域 子ども家庭福祉とは	事前学習	教科書 pp. 8～22 を読む
		事後学習	児童福祉法の総則と子どもの権利の関係について理解する
第3回	子ども家庭福祉の歴史①：・事前・恩恵から権利保障へ ・子どもの権利擁護の変遷	事前学習	教科書 pp. 24～32 を読む
		事後学習	昭和初期までの歴史を理解する。戦後から平成までの子どもの権利擁護の歴史について理解する

第4回	子ども家庭福祉の歴史②：・子ども家庭福祉と現代社会	事前学習	教科書 pp. 33～36 を読む
		事後学習	現在の「子ども・子育て支援制度」に至るまでの経緯を理解する
第5回	子ども家庭を取り巻く現代社会	事前学習	教科書 pp. 38～46 を読む
		事後学習	子どもの福祉と子育てに支援が必要な状況であることを理解する
第6回	子ども家庭福祉の支援の基盤①：・子ども家庭福祉の法体系 ・子ども家庭福祉の実施体制	事前学習	教科書 pp. 48～64 を読む
		事後学習	児童福祉六法と関連法案の概要及び子ども家庭福祉行政の機構について理解する
第7回	子ども家庭福祉の支援の基盤②：・子ども家庭福祉にかかわる関係機関・施設と利用方式 ・子ども家庭福祉の財源と費用負担	事前学習	教科書 pp. 65～74 を読む
		事後学習	子ども家庭福祉にかかわる関係機関・施設と費用負担について理解する
第8回	子ども家庭福祉の支援の基盤③：・子ども家庭福祉の人材と専門職 ・子ども家庭福祉の計画的推進	事前学習	教科書 pp. 75～86 を読む
		事後学習	子ども家庭福祉の専門職と子ども・子育て関連3法を理解する
第9回	子どもの福祉課題と支援①：・子ども・子育て支援 ・母子保健 ・保育	事前学習	pp. 88～115 を読む
		事後学習	母子保健と医療や福祉との連携、協働を理解する
第10回	子どもの福祉課題と支援②：・要保護児童と在宅支援 ・児童虐待にかかわる支援 ・社会的養護	事前学習	pp. 116～137 を読む
		事後学習	地域づくりにおけるソーシャルワーカーの役割と児童虐待への対応のあり方を理解する
第11回	子どもの福祉課題と支援③：・ひとり親家庭への支援 ・ドメスティックバイオレンスと女性支援 ・スクールソーシャルワーク	事前学習	pp. 138～160 を読む
		事後学習	ひとり親家庭や DV への対応及びスクールソーシャルワークの役割を理解する
第12回	子どもの福祉課題と支援④：・少年非行 ・若者支援 ・障害のある子どもへの支援	事前学習	pp. 161～186 を読む
		事後学習	少年非行への対応、若者支援の制度、障害のある子どもへの支援を理解する
第13回	子ども家庭福祉のソーシャルワーク実践①：・子ども家庭福祉におけるソーシャルワーク ・子ども家庭福祉の支援の端緒と調査 ・子ども家庭福祉におけるアセスメント	事前学習	pp. 194～209 を読む
		事後学習	子ども家庭福祉におけるソーシャルワークの意義を理解する
第14回	子ども家庭福祉のソーシャルワーク実践②：・子ども家庭福祉における支援の展開過程と連携 ・子ども・子育て支援にかかわる実践	事前学習	pp. 206～217 を読む
		事後学習	包括的な支援で親の孤立を防ぐことを理解する
第15回	子ども家庭福祉のソーシャルワーク実践③：・児童虐待にかかわる実践	事前学習	pp. 222～229
		事後学習	児童虐待への対応が、実際にどのように行われるのかを理解する
期末試験			